

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

季刊 みる・きく・ふれる 文化財

おうみ文化財通信

vol. 41

Information of Cultural Heritage in OHMI

2019 Autumn

【調査速報】 将棋の駒「王将」を発見 —長浜市塩津港遺跡—

【展示案内】 「湖東三山 金剛輪寺の名宝
～琵琶湖文化館寄託品里帰り特別公開～」

【展示案内】 令和元年度 特別展 「『動物美術館』開演！」

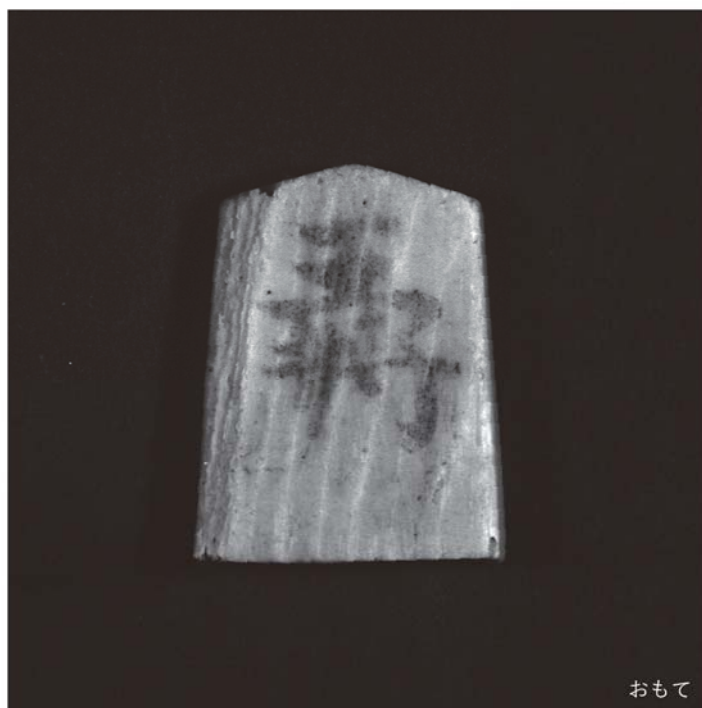
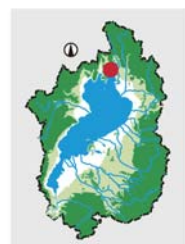
【展示案内】 『平成の発掘成果から滋賀の歴史を垣間見る—縄文・弥生時代編—』



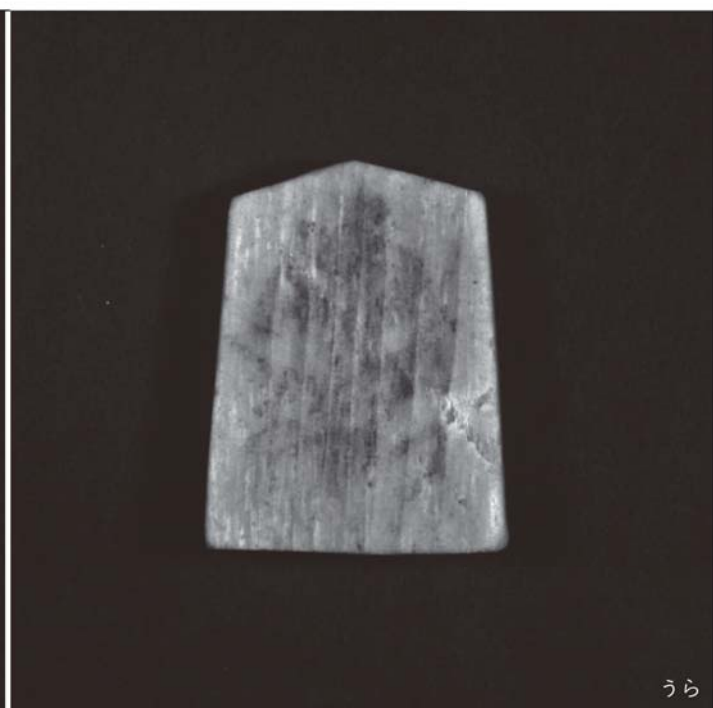
【調査速報】

将棋の駒「王将」を発見

ながはまし しおつこういせき
—長浜市 塩津港遺跡—



おもて



うら

将棋の駒「王将」(赤外線写真)

(写真: 滋賀県教育委員会 提供)

塩津港遺跡は平成 18 年度から実施した発掘調査によって、平安時代後半(11～12 世紀)の神社や港の姿が明らかになった全国的にも重要な遺跡です。神社については本殿などの建物や境内を囲う堀、直径 51 cm もある太い柱を使った鳥居などの遺構が見つかっており、本殿の建築部材や全国的にも発見例がない起請文木札(神様への宣誓の言葉が書かれた木札)などの貴重な遺物が出土しています。

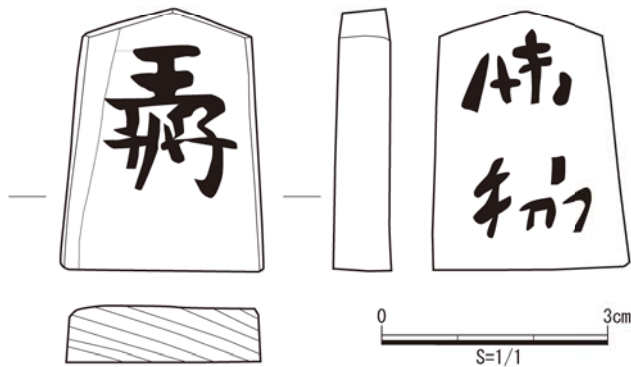
平成 30 年度の発掘調査では神社の東側にあたる部分を調査し、境内に建つ掘立柱建物や境内の南側と東側を囲う堀、鳥居の東側にあたる太い柱などの遺構が確認できました。また、堀からは「治承五年」(1181 年)と記された起請文木札などの遺物が出土しました。

このような成果の中で今回紹介するのは、堀から出土した将棋の駒「王将」です。この遺跡では「金将」1 枚と墨書のない駒 2 枚がこれまでも出土しており、駒としては 4 枚目の発見となります。「保延三年」(1137 年)から「建久三年」(1192 年)までの年号が記された起請文木札によって、堀の年代は 12 世紀であることがわかっています。「王将」などの将棋の駒も、この時期のものであると考えられます。

長浜市塩津港遺跡 大川改修工事に伴う発掘調査

◆出土した将棋の駒「王将」

駒は、縦 3.5 cm、上端幅 2.3 cm、下端幅 2.7 cm、厚さ 0.8 cmの大きさがあります。平面形は上端と下端の幅にほとんど差がない五角形をしており、断面形は厚みに変化のない扁平な形のもので、上端に比べて下端を幅が広く厚く作る室町時代末以降の駒とは異なる形をしたもので、平安時代から鎌倉時代にかけて作られた駒の特徴的な形をしています。墨書は両面にあり、表の上端寄りに「王将」と書かれています。裏には墨痕が全面に見られるものの、判読することができませんでした。



◆平安時代の将棋

考古学の成果や文献史料から、平安時代には将棋が日本に伝来していたことがわかっています。

奈良県の興福寺旧境内で行われた発掘調査では、天喜六年（1058年）の年号が記された木簡とともに将棋の駒 15 点が出土しています。

将棋がより多くの人々に楽しまれるようになった室町時代に比べ、この時代の出土事例は全国的にも多くはありません。県内においても、観音寺城下町遺跡（近江八幡市）から出土した室町時代末の駒などがあるものの、平安時代のものは塩津港遺跡のみです。今回見つかった「王将」の駒も貴重な事例のひとつとみられます。

◆塩津港遺跡と将棋の駒

平安時代の駒が出土した遺跡の特徴から、僧侶や貴族、役人、豪族などといった富裕層に将棋が普及していたと考えられています。塩津港遺跡においても、神社や港の経営に関わる人々によって受け入れられていたものとみられます。

ただ、平安時代の文献には将棋の駒が占いに使用されたことが記録されており、神社との関わりに注目すると遊びの道具としてでなく儀礼や行事に関わって使用された可能性も想定できます。

堀の中からは、独楽やホッケーに似た遊戯である毬杖（ぎつちょう）の木球も出土しています。このような遊びの道具と神社との関係を考えるうえで貴重な成果といえます。



塩津港遺跡の神社 調査地を北側から撮影した写真に復元模型を合成した写真。琵琶湖側に神社の入り口となる鳥居が建っている。

（写真：滋賀県教育委員会 提供）



神社の復元模型 灰色になった地面の範囲にある遺構が調査で確認された。鳥居の南側は土橋となっており、その両側から境内を囲む堀がめぐる。

◆調査成果のまとめ

・将棋の駒「王将」が神社の堀から出土

全国的にも少ない平安時代後半の可能性のある駒が見つかりました。将棋の駒などの遊びの道具と神社との関係を考える新たな成果が得られました。

主な参考文献

- 小泉信吾 (1987) 「駒の出土例とその意義」『京都府埋蔵文化財論集 第1集』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 清水康二 (1998) 「古式象棋と将棋の伝来」『考古学ジャーナル』 NO428
- 清水康二 (2002) 「考古学から見た古代日本将棋」『日本文化としての将棋』三栄社

「湖東三山 金剛輪寺の名宝～琵琶湖文化館寄託品里帰り特別公開～」



重要文化財 金銅透彫華鬘 鎌倉時代(金剛輪寺所蔵)

休館中の滋賀県立琵琶湖文化館では、全国でも有数の質と量を誇る収蔵品に親しんでいただき、滋賀の文化の豊かさを再認識し、文化財保護の取組みについて理解して頂くため、県内地域と連携した地域連携企画展を行なっています。その第2弾となる本展では、愛荘町立歴史文化博物館を会場に、琵琶湖文化館および愛荘町立歴史文化博物館に寄託されている金剛輪寺(愛荘町)の宝物を展示し、名宝の魅力をお伝えします。

湖東の名刹・金剛輪寺には、国宝の本堂をはじめ数多くの名宝が伝わり、その豊かな歴史を物語っています。関連作品と併せて、紅葉の鮮やかな季節に、湖東の奥深い歴史と美をゆっくりとお楽しみ下さい。皆さまのご来場をお待ちしております。

開催期間：令和元年(2019年)11月1日(金)～12月15日(日)

会場：愛荘町立歴史文化博物館 企画展示室

観覧料：一般300円(250円) 小・中学生150円(100円)

※()内は20名以上の団体料金

※11月16日(土)・17日(日)・23日(土)・24日(日)は無料入館日

開館時間：午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日、火曜日(※祝日は開館、11月は毎日開館)

※企画展に関するお問い合わせは、下記の施設まで。



あきこ君

～関連イベント～

●学芸員によるギャラリートーク

開催日時：12月1日(日) 午後1時30分～

参加費：無料(観覧料が必要)

申込方法：愛荘町立歴史文化博物館まで
電話またはFAXで申込み



滋賀県立琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先

TEL. 077-522-8179 FAX. 077-522-9634

E-mail : biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp

URL : <http://www.biwakobunkakan.jp/>

愛荘町立歴史文化博物館

〒529-1202 愛知郡愛荘町松尾寺 878 番地

TEL. 0749-37-4500 FAX. 0749-37-4520

URL : <http://www.town.aisho.shiga.jp/rekibun>

「『動物美術館』開演！」

動物埴輪から木造・石造・やきものの狛犬、仏教美術、神道美術の中の動物、近世絵画のかわいい動物など、日本の動物美術を系統的に展示します。



木造狛犬(滋賀・神田神社)



羊形硯(奈良文化財研究所)



狗子図〔部分〕(滋賀県立琵琶湖文化館)

開催期間：令和元年(2019年)10月12日(土)～11月24日(日)

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日(ただし、10月14日・11月4日は開館、翌日休館)

その他：入館料、関連行事等詳細は、博物館HPをご覧ください。

滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678

TEL. 0748-46-2424 FAX. 0748-46-6140

URL : <http://www.azuchi-museum.or.jp/>



博物館HPはこちら



滋賀県埋蔵文化財センター ロビー展示

『平成の発掘成果から滋賀の歴史を垣間見る — 縄文・弥生時代編 —』

平成の30年間では国・県事業に伴う多くの発掘調査が県内で行われました。この間に発掘された遺物や調査の記録は多量にあります。元号が平成から令和に変わったのを機に、こうした資料を2年に分けて公開することとしました。

まず今回は縄文時代と弥生時代に焦点を当て、今まで埋蔵文化財センターのロビーで展示されていなかった遺跡や遺物も取り上げながら、平成30年間の縄文時代と弥生時代の発掘の成果を公開します。また、あわせて平成30年の発掘の軌跡を収蔵する写真などから振り返ります。

研究者もビックリ!! 滋賀県最古の竪穴住居群

ひがしおうみし あいだにくまはらいせき
東近江市の相谷熊原遺跡では、縄文時代草創期（約13,500年前）の竪穴住居が5棟発掘され、日本最古級の土偶や滋賀県最古の土器・石器が注目を集めました。

これらの遺物以上に驚かされたのが、竪穴住居の大きさ（直径6～8m）や深さ（平均約1m）です。栗東市下まがりいせき おうみはちまんし かみでいせき
鉤遺跡や近江八幡市上出遺跡から見つかった数百年後にあたる縄文時代前期の竪穴住居と比べても1.5～2倍の大きさがあり、移動生活の旧石器時代から定住し始めた頃の住居が立派であったことがわかりました。なぜ立派な住居を造ったのか謎であり、研究者も驚かされた発見です。この竪穴住居から出土した土器・石器・土偶を公開します。



相谷熊原遺跡 竪穴住居

出産・文身 習俗を表す土偶

もりやまし あかのいはまいせき
守山市赤野井浜遺跡では、3点の土偶および土偶形容器が出土しました。これらの土偶等から縄文時代から弥生時代の初め頃の習俗を読み取ることができます。

くっせつぞうどくご
屈折像土偶は腕や上半身は見つかりませんでしたが、両膝に残る剥落痕からしゃがんだ姿勢で膝に手のひらを置いていたと考えられます。さらに、この土偶には生殖器の表現があり、そこから棒状のものが出ている表現が見られます。この棒状の表現がまさに子供が生まれる瞬間を表しています。このことから当時は座産であったことがわかります。また、ほかの土偶や土偶形容器の口の周辺には、髭のような表現があります。これは当時のいれずみ
文身を表しています。これらの習俗を表す土偶を展示します。



赤野井浜遺跡 土偶

（写真：滋賀県教育委員会 提供）

展示期間 令和元年9月17日（火）
～ 令和2年7月10日（金）
展示場所 滋賀県埋蔵文化財センター ロビー

滋賀県埋蔵文化財センター

〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732-2
（「びわこ文化公園」内）
TEL. 077-548-9681 FAX. 077-548-9682

